

# コロナ後の世界/大学教育はどう変わっていくか？

## 講師

**大森 昭生**（共愛学園前橋国際大学／共愛学園前橋国際大学短期大学部 学長）

1996年に学校法人共愛学園に入職、共愛学園前橋国際大学国際社会学部長、副学長等を経て、2016年より現職。専門はアメリカ文学で特にヘミングウェイを研究。中央教育審議会大学分科会、同質保証システム部会、同教学マネジメント特別委員会、内閣官房「地方創生に資する魅力ある地方大学の実現に向けた検討会議」等の他、群馬県内での各種審議会等の委員を多数務める。全国の学長が注目する学長ランキング4位（大学ランキング 2022）

**喜久里 要**（早稲田大学 リサーチイノベーションセンター 知財・研究連携担当課長）

2003年文部科学省に入省。初等中等教育局児童生徒課でいじめ自殺問題への対応を経験。2009年7月より高等教育局大学振興課・私学助成課で大学行政に6年間携わる。2013年大阪大学に出走し、総務企画部経営企画課長として勤務し、SGUなど大学改革の企画立案を担当。2015年10月早稲田大学職員に転身し、2018年11月より現職。学会や勉強会、大学での講演活動も精力的に行っている。

**佐藤 浩章**（大阪大学 全学教育推進機構 教育学習支援部 准教授）

専門は高等教育開発。2002年に愛媛大学大学教育総合センター教育システム開発部講師となり、同大教育・学生支援機構教育企画室准教授、副室長などを経て、2013年より現職。著書に『授業改善』（共編著）、『講義法』（編著）、『大学のFD Q&A』（編著）、『実務家教員への招待』（共著）、『大学の質保証とは何か』（共著）、『大学教員のための授業方法とデザイン』（編著）、訳書に『大学教員のためのルーブリック評価入門』（監訳）などがある。

## 指定討論者

**岩崎 貢三**（高知大学 理事（教育担当）・副学長）

1985年京都大学大学院農学研究科農芸化学専攻修士課程修了、1987年農学博士の学位取得。2006年より高知大学農学部教授。その後、副学長（教育担当）、学生総合支援センター長などを歴任。2020年4月より現職。専門分野は植物生育環境学、植物栄養学。

## 司会

**塩崎 俊彦**（高知大学 大学教育創造センター長）

## プログラム概要

2020年、COVID-19の感染拡大は、キャンパスのロックアウト、オンライン授業、学生の経済的困窮や精神的孤立など、さまざまな形で高等教育にも影を落としました。これまでは顕在化してこなかったさまざまな問題がCOVID-19の感染拡大が引き金となって表面化したものということができるでしょう。

全面オンラインで開催される本年度のシンポジウムでは、コロナ後の社会における高等教育のあり方について、参加者の方々とともに理解を深める機会と致します。

**主な受講対象者** 教職員（SPODフォーラム2021に参加される全ての方）

**日時** 8月26日（木）15時00分～17時00分